

第5学年の実践（国語）情報活用

- 1 単元名 書き手の意図を考えながら新聞を読もう
教材名 「新聞を読み比べよう」 東京書籍5年

2 単元のねらい

○新聞記事に興味関心をもち、進んで書き手の意図を読み取ろうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べ、写真や見出しに気を付けて、書き手の意図を読み取ることができる。

【読むこと】

○新聞記事の構成や写真の役割が分かり、記事の中には書き手の意図を伝える表現の工夫があることに気付くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 情報リテラシー指導の観点（布勢小学校 令和元年度 情報リテラシー指導体系表より）

○新聞記事の構成や写真の役割などを読み取る。（情報の収集 記事の構成・写真の役割 G）

○二つの記事を読み比べ、共通点や相違点を押さえ、書き手の意図を読み取る。（情報の整理 J）

4 単元設定の理由

（1）単元について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読むこと（1）イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」である。児童はこれまでも、日常の学習や読書活動を通して、本や文章を読むことを学習している。しかし、写真を含む多様なテキストを比べて読む経験は少ないと思われる。そのため、本単元では、二つの新聞記事を比べて、記事や写真の関係に注目させ、書き手の意図を考えることをねらいとした。共通点や相違点などを明らかにし、書き手の意図を考えるような読み方を工夫させたい。

本教材は、身近なメディアの一つである新聞を取り上げ、新聞記事の種類、紙面の編集のされ方などを説明している。新聞記事を構成する見出しやリード文などとともに、写真の役割を確かめ、新聞の特徴や構成を学ぶ。そして、「アユの遡上」を取材した二つの新聞記事を取り上げ、記事を構成する見出しや写真などを比べて読むことで、新聞記事を構成する一つ一つの要素に書き手の意図や工夫が込められていることを実感できるだろう。新聞に親しみ、社会の出来事に関心をもつ児童を育てるのに適した教材といえる。

（2）児童について

（略）

(3) 指導にあたって

単元の導入の工夫

一次では、単元の導入として、児童が興味をもちそうな出来事を取り扱った新聞記事（5月12日『山陰中央新報』「世界リレー男子4×100mリレー予選」）を取り上げる。まず、見出しに興味をもたせるために、写真を隠した記事を提示する。見出しからどんな内容なのか想像させたり、以前のリレーのニュースを想起させたりし、出来事を大まかにとらえさせたい。次に、写真の役割や記事と写真の關係に注目させるために、二つの写真を用意し、どちらが記事にふさわしいか考える活動を行う。このような活動を通して、新聞記事には書き手の意図が隠れていることに気付かせ、書き手の意図を読み取るという本単元のねらいに関心をもたせたい。

読み比べる活動

二次では、A社とB社の二つの記事を読み比べる活動を行う。どちらも多摩川のアユの遡上を取り扱った記事だが、A社はアユに、B社は多摩川に視点を置いて書かれている。まず、「それぞれの新聞記事で主語として多く使われている言葉は何か」「新聞の記事のどこに大きな違いがあるのか」と問いかけることによって、写真や本文、見出しなどに目を向けさせ、書き手の意図を簡単に予想させたい。

次に、見出しとリードから共通点を見付けていく。共通するキーワードを見付けていくことで、記事の中の5W1Hを押さえ、出来事の大体をつかむようにしていく。さらに、本文から共通点と相違点を読み取っていく。その際、一つ一つの言葉の違いではなく、段落ごとのまとまりでとらえ、共通する内容が書かれた段落と異なった内容が書かれた段落があることをおさえる。最後に、本文の相違点が見出しや写真とつながっていることを確認し、同じ出来事を取り上げた新聞記事でも、書き手の意図によって違いがあることに気付かせたい。

ペアで伝え合う活動

三次では、ペアで同じ新聞記事を読み合い、見出しを考えたり書き手の考えた見出しのよさについて話し合ったりする言語活動を設定する。見出しは、書き手の意図が凝縮されたものである。見出しを考えるためには、リード文や本文を読み解いたり記事と写真の關係に注目したりする力が必要となってくる。

また、新聞記事の読解力については個人差があることが予想されるので、話し合いがスムーズにできるように、教師が意図的に組んだペアによって学習を行うこととする。ペアで伝え合ったり話し合ったりする際には、新聞記事のどこに注目したのかを明確にして話すようにすることで、新聞記事から書き手の意図を読み取るポイントを見付けられるようにしたい。終末には、他のペアと自分たちの新聞記事に付けた見出しやその理由を伝え合う活動を設定する。読み取ったおおまかな内容や書き手の意図を伝えることで、より深い理解につなげたい。

三者の連携

本単元では、担任、司書教諭、学校司書が連携した授業を展開する。単元の導入の前に、三者で話し合い、単元の流れ、役割分担、身に付けさせたい力等を明確にする。

一次では、司書教諭が中心となり、新聞記事を構成する見出しやリード文などとともに、写真の役割を確かめ、新聞記事の特徴や構成を指導する。また、三次で使う新聞記事については、司書教諭と学校司書を中心に選定を行う。児童の実態にあわせ、興味関心をもちやすいものや写真や本文から書き手の意図が読み取りやすいものなどを選ぶことで、書き手の意図を読み取り、見出しを付けるという活動に意欲的に取り組むことができると考える。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
・新聞記事に興味関心をもち、進んで書き手の意図を読み取るうとしている。	・同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べ、写真や見出しに気を付けて、書き手の意図を読み取っている。	・新聞記事の構成や写真の役割が分かり、記事の中には書き手の意図を伝える表現の工夫があることに気付いている。

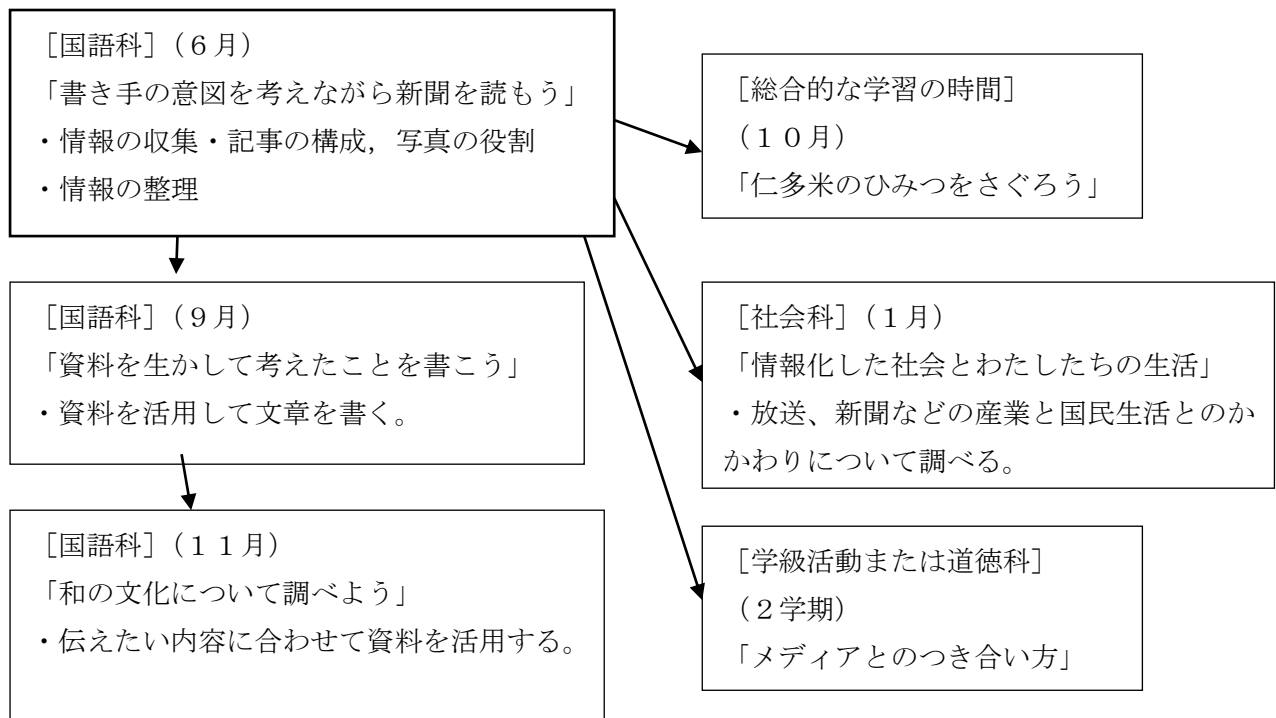
6 単元の指導計画と評価計画（全7時間）

時間	学習活動	教師の支援 (●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書)	☆評価規準及び 評価方法
一次 2時間	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>・新聞記事の書き手の意図を読み取るという学習課題について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">書き手の意図を読み取ろう。</div> <p>○新聞がどのようなものか理解する。</p> <p>・教科書 P.66～69を読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真について理解する。</p> <p>・実際の新聞記事で確かめる。</p>	<p>●◆児童にとって身近な話題を取り上げた新聞記事を用いて、使われている見出しや写真には書き手の意図があることに気付かせる。</p> <p>●◆◇児童が実感しやすいように、実際の新聞記事『読売新聞』『さんいん学聞』を用いて、新聞の構成や写真の役割を確認していく。</p>	<p>☆新聞記事に興味関心をもち、進んで書き手の意図を読み取るうとしている。【関】(発言・行動観察)</p> <p>☆新聞記事の構成や写真の役割が分かり、書き手の意図を伝える表現の工夫があることに気付いている。【伝国】(発言・行動観察)</p>
二次 2時間	<p>○A社とB社の二つの記事を読み比べ、共通点をとらえて内容を整理する。</p> <p>・見出しや写真などから、記事の主題になる部分を見つける。</p> <p>・見出しとリード文から共通点を見付け、出来事の大体をとらえる。</p> <p>○二つの記事の相違点をとらえて書き手の意図を考える。</p> <p>・本文を段落ごとにとらえ、相違点を見付ける。</p> <p>・写真を読み解き、その効果を考える。</p> <p>・記事の全体をとらえ、それぞれの記者の伝えたいことを考え、伝え合う。</p>	<p>●見出しやリードから、どちらにも共通して取り上げられているキーワードを読み取ることで、情報の中の5W1Hをとらえられるようにする。</p> <p>●相違点に目を向けることで、同じ出来事について書かれた記事でも書き手の伝えたいことには違いがあることに気付かせる。</p> <p>●本文の相違点が、写真や見出しとつながっていることを確認する。</p> <p>●特に見出しに着目させ、記者がなぜこの見出しにしたのか理由を考えさせる。</p>	<p>☆二つの記事の共通点と相違点を押さえ、それぞれの記事の内容を読み取っている。</p> <p>【読】(発言・ワークシート)</p> <p>☆二つの記事を読み比べ、写真や見出しに気を付けて、それぞれの書き手の伝えたいことを読み取っている。【読】(発言・ワークシート)</p>

<p>三次 3時間 本時 2 / 3</p>	<p>○記事『さんいん学聞』の内容や写真から、書き手の意図に合った見出しを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で同じ内容の新聞記事を読み、考えた見出しとその理由について交流する。 ・新聞記事を読み、それぞれが考えた見出しとその理由をペアで伝え合う。 ・別の新聞記事を読み、考えた見出しとその理由を伝え合う。※本時 	<p>●◆◇児童が興味関心をもてるような新聞記事を選び、見出しを隠したものを提示する。</p>	<p>☆新聞記事に興味関心を持ち、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。【関】(発言・ワークシート)</p> <p>☆新聞記事を読み、本文を読み解いたり記事と写真の関係に注目したりしながら、書き手の意図を読み取っている。【読】(発言・ワークシート)</p>
------------------------------------	--	---	--

7 単元構成モデル

・書き手の意図



8 本時の学習

(1) ねらい

○新聞記事を読み、本文を読み解いたり記事と写真の関係に注目したりしながら、書き手の意図を読み取ることができる。 【読むこと】

(2) 展開

主な学習活動 予想される児童の反応（・）	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書） と評価（☆）
<p>1.本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">書き手の意図を読み取って見出しを見つけよう。</div>	
<p>2.本時の活動の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>①新聞記事を読む。（一人で）</p> <p>②記事の見出しを考える。（一人で）</p> <p>③考えた見出しとその理由を伝え合う。（ペアで）</p> <p>④実際の見出しを知り、書き手の意図が分かるところをもう一度確かめる。（ペアで）</p> </div>	<p>●前時までの学習を想起させ、見出しを考えて伝え合う手順を確認する。</p> <p>●流れはいつでも確認できるように掲示しておく。</p> <p>◇封筒に入った記事を提示し、児童の意欲を高める。</p>
<p>3.新聞記事を読んで、書き手の意図を考えながら見出しを付ける。（個人思考）</p>	<p>●◆◇考えにくい児童には、本文のまとめやリード、写真からどんなことが分かるかを考えるよう助言する。</p> <p>●◆◇記事中の分からない語句については説明する。</p> <p>●◆◇これまでの学習の足跡を掲示に残しておく、それを手がかりに見出しを考えるように助言する。</p>
<p>4.考えた見出しについて同じ記事を読んだ友達と伝え合う。（ペアで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しを考えたときに、本文のここを使ったよ。 ・写真に〇〇が写っているから、この見出しにしたよ。 ・キャプションの言葉から選んで見出しをつけたよ。 ・選んだ言葉は違うけど、伝えたい気持ちは一緒だね。 	<p>●◆◇考えた見出しだけでなく、その見出しにした理由について新聞記事と関係付けて話すように助言する。</p> <p>☆新聞記事を読み、本文を読み解いたり記事と写真の関係に注目したりしながら、書き手の意図を読み取って見出しを付けている。【読】（発言・ワークシート）</p>

<p>5.実際の見出しを知り、新聞記事の中から書き手の意図が現れているところをもう一度確かめる。(ペアで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だからこの写真にしたんだね。 ・キャプションに使われているのと同じ言葉が使われているよ。 ・記事の中に繰り返し出てくる言葉が見出しにもあったよ。 <p>6.読み取った書き手の意図を伝え合う。</p> <p>7.学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなところに注目すると書き手の意図がわかるね。 <div data-bbox="395 929 662 1258" style="text-align: center;"> <p>書き手の意図</p> <p>言葉 ↑</p> <p>何回も出てくる ↑</p> <p>まとめの段落 ↑</p> <p>写真 ↑</p> <p>見出し ↓</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●見出しの正解，不正解にとらわれず，見出しとつながっているところに着目させ，もう一度新聞記事に戻って書き手の意図を確認するようにさせる。 ◇切り抜いた見出しをペアに渡す。 ●読み取った書き手の意図を，新聞記事を使って伝えるようにさせる。 ●話す時間を制限することで，書き手の意図に絞って話すようにさせる。 ●書き手の意図を読み取るポイントをおさえ，クラゲチャートで考えをまとめる。 <div data-bbox="965 963 1284 1198" style="text-align: center;"> </div>
---	---

(3) 本時の評価

A 十分に満足できると判断される児童の具体例	B おおむね満足できると判断される児童の具体例	→支援を必要とする児童への指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み，本文を読み解いたり記事と写真の関係に注目したりしながら，書き手の意図を読み取って見出しを付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み，本文を読み解いたり記事と写真の関係に注目したりしながら，書き手の意図を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き手の意図を読み取ることができない。→リードから，出来事の大体をとらえさせたり，写真やまとめの段落などに着目させて書き手の意図を一緒に考えたりする。

(4) 研究の視点

- ・記事の見出しを考え，ペアで伝え合う活動は，書き手の意図を読み取るのに有効であったか。
- ・選んだ新聞記事(『さんいん学聞』より)は，児童が書き手の意図を読み取るのに適切であったか。
- ・担任・司書教諭・学校司書の支援の仕方は適切であったか。

9. 研究授業における協議の概要

参加者	校内 13名、校外 30名 計 43名
授業及び 研究協議の 概要	<p>新聞記事の中には書き手の意図を伝える表現の工夫があることに気付き、与えられた記事の見出しを考え、伝え合う学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・見出しを考えることは、その記事の書き手の思いや願いを考えることにつながる効果的な活動であった。・教科書だけでなく、さまざまな新聞記事を用いて学習したことで、児童は新聞をより身近に感じることができた。・実際の新聞記事の見出しよりももっといい見出しが作れる可能性があることや、読み手を引きつけるための見出しが重要視される場合もあることを押さえる必要があった。